

# 本太中だより

第7号

令和6年11月1日

さいたま市立本太中学校

048(886)4305

<http://motobuto-j.saitama-city.ed.jp>

E-mail motobuto-j@saitama-city.ed.jp

みんなが笑える素敵な方法

「じゃんけん」より、「くじ引き」より、「にらめっこ」

校長 田中 一秀

先日、さいたま市中学校駅伝競走大会が、晴天の中行われました。全員がタスキを次に繋ぐ、その思いで、苦しい中、力走を見せてくれました。結果は男子が9位入賞、女子が11位、走った生徒だけでなく、当日サポートに回った生徒、熱心に指導した教職員全員で勝ち取った結果だと思います。もちろん、生徒、保護者の応援も力となりました。駅伝が終わった後の生徒たちの笑顔、頑張って取り組んできた者だけが得られるものです。駅伝の練習に参加して頑張った皆さん、熱心に指導した先生方に拍手を送りたいと思います。感動をありがとうございます。

さて、先日、ある幼稚園であった、とても感心し、かつ、感動する話を聞きました。その幼稚園では、発表会で劇をやることになったのですが、みんなが主役をやりたいと言ったそうです。そこで、先生は園児に決め方を聞くことにしました。すると、ある子は「じゃんけん」がいい、また、別のある子は「くじ引き」がいいと言いました。ここまででは先生も想定内、どちらにしようかと考えていたところ、さらに別のある子が「にらめっこ」がいいと言ったそうです。先生は自分が思いもしなかった提案に、なぜ「にらめっこ」がいいのか聞くと、その子は「にらめっこならみんな笑うでしょ」と答えたのだそうです。確かに、じゃんけんやくじ引きで決めたのでは、じゃんけんに勝った子や当たりくじを引いた子以外は、がっかり、悲しい気持ち、表情になります。しかし、にらめっこなら、負けた子、主役になれなかつた子も笑っている。その場にいた園児、先生、話を聞いた保護者も、私と同じく感動し、心が温かくなつたに違いないと思います。

最近読んだ本\*に記載されているのですが、1999年から2000年に変わろうとしていたときに、これまでの1000年間における最も偉大な発明は何かという議論において、ミッチャエル・レスニックは、幼稚園と答えています。その理由として、フリードリッヒ・フレーベルが世界最初に幼稚園を開園したとき、それ以前の学校とは教育に対して基本的に異なるアプローチ、つまり、教師が生徒に情報を伝え、生徒はその情報を注意深く書き留めるのというものではなく、玩具や工芸品、その他の物理的な品物と対話する機会を提供了ことをあげています。このことは、現在学校で行っている、自ら興味や関心を持って取り組み、他者との協働や対話を通じて自己の考えを広げ、知識を相互に関連づけてより深く理解する学びに通じるものがあると考えています。現在学校では来年度に向けて、生徒や地域の実態を踏まえ、学校教育の目的や目標を達成するために、教育の内容を生徒の心身の発達に応じ、授業時数との関連において総合的に組織した教育計画を検討しております。来年度の教育計画につきましては、策定できましたらご連絡をさせていただきます。

ところで、本校は、大変愛情にあふれた地域に支えられています。本校は、地域の方から様々なご支援をいただいているのと同時に、本校の生徒たちも様々な形で地域ボランティア活動を行っています。生徒のボランティア活動が活発なのは、保護者の皆様の御協力、お考えの賜物だと深く感謝しております。この素晴らしい環境を土台に、人口減少、少子高齢化の現在、私は「お互いが相手に何かをしてあげる」という段階から、「学校を核として地域の方々の幸せ、やりがいを創出する」段階へ進めていきたいと考えています。生まれ育った地域で幸せに過ごすために、中学校時代に何を学び、どんな力を身に付けることが必要なのかを、学校だけではなく地域、保護者の皆様にもお考えいただきたいと思います。私は、大人も子どもも学校を核として共に学ぶ、学校を核としたまちづくり、これからの中学校について、地域の方と共に考えていきたいと思います。

\*ミッチャエル・レスニック (Mitchel Resnick) 他 「ライフロング・キンダーガーデン」 2018年